

「プロフェッショナル……の小さな自慢話」

仕事の、とあることである人に褒められた。褒められることは滅多に、いや殆ど、いや全然ない！ 売場の人からは、時々感謝されることはあっても……。

滅多にないことで、心身が反応。たぶん小さな目にも☆が点灯したと思う。

漠然としているので、ちょっと具体的に書く。一週続けての物産展ででてこ舞い。二週目は全国あちこちの銘品で……、基本びら一式を作り終えてから、「……台風19号の影響で商品の入荷が遅れ……」と小さめのびらを何枚も作っておく。無駄になっても、それも幸い……と思いつつ。

後日、Nさんが、「あれ、助かったわ。バイヤーさんも喜んでたから、Kさんが作ったと言っといた！」と報告してくれた。よかった！ 長年の勤が活かされた。

「私が頼んで作ってもらった」とも言えたのに、自分の手柄になかったNさんも凄い！ ありがとう。オバサンは単純で、褒められると嬉しくて、（よし、また良い仕事しよう!!）となるのです。





秋近し
そろそろ合唱を
歌えるわ♪



京子の
つぶやき川柳
(自己流めちゃくちゃ)

丁島屋
涼みに行くと
仕事もね!!



季節外れの猛暑

苔太郎

生きて
いたなら



焦太郎



朗年女子 まだまだ現役です



「実家から発掘されたもの」

実家のガラクタ、いやいやお宝を甥たちが片づけてくれたして……。私関係のものを選別してくれた中に、小学校の卒業文集や高校、短大時代の勉強してたノートがどっさり！ 学生時代は、ええ加減な生き方をしていた……。と思い込んでいたけど、ノートからは熱意が溢れていた。(マジ!) 教科書にも書き込みして、ノートもびっしり！

小学校の時も、「今より大人しい子だった」と思っていたが、級友のコメントを見てまたまたびっくり!! 「おしゃべり」「にぎやか」「らくがき好き」……。信じられな〜い!

無口で大人しい京子ちゃんよ、いずこに!? ケンちゃんや典子ちゃん、まゆみちゃん……。の文も懐かしく読み、約半世紀前にタイムスリップ。

お父さん、お母さん、大切に保存してくれていて、甥っ子へ、発掘してくれてありがとう!!

「母子手帳」

実家の片づけで、二冊の母子手帳が出てきた。ボロボロ……。六十歳で山に還った昭和二十五年生まれの姉と、二十九年生まれの私のも。

昔人間のお決まりの冗談、「日赤の裏で拾ってきた」「橋の下に捨てられていた子」でなく、ちゃんと日赤で生まれたことの証明だ。日赤の住所が「岡山市内山下……」今の丸の内日本銀行になっている。私も今の青江に移る前の日赤病院を記憶している。

母の言葉、「あなたが生まれた六月、見舞いでもらったピワが美味しかった……」を思い出した。私は内山下で生まれ、いろいろな喜び、悲しみをあちこちで味わって、今また内山下に戻って、「朗年期」を生かされている。

お父ちゃん、お母ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん……ありがとう！ お姉ちゃんのおかげで日々明るく生きます！ 胸がキュンとしてしまったわ。

「男嫌いだった苔太郎」

今は亡きニワトリの苔太郎は、男嫌いだった。自転車屋のお客さんは殆んど男性で、油断すると突つつくので、母は苔太郎を抱いていた。父にまで「コオッ」と向かって行くので、「こらこらコッちゃん、突ついたらおえん！ この人のおかげで餌を食べさせてもらよんじゃから！」と母に叱られていた。外で通行人の男性に突撃したことも……ある。

女好き？ 接するのが母と私くらいしかいなかったけど……。好かれていたなあ。我々を見ると、（抱いて〜!!）と熱い視線で近づいて、有無を言わず肩や背中に向かって飛んで来た。

「やめて〜!!」と逃げても容赦なく向かって飛び乗る。落下して怪我しないよう低い姿勢で受けとめることも。「クオッ!!」と甘えた声を出す苔太郎。抱っこして上向きにすると、まぶたを閉じてうつつトウト鶏トウしていた。

赤ちゃん抱きで揺ると、「あゝあゝあん」と甘え声を出す。「重てえから下りな

さい」と言うと、不満げな顔をしていたなあ。本当に女好きの手乗りニワトリでした。

※今は、一羽飼うにも家畜何たら……？ で保健所への届けが必要らしい。

「母と苔太郎」

苔太郎のことは、今まで出版した本に必ず出てくるから、有名鶏だと思う。

雄鶏は気性が荒いというのが一般的だけど、苔太郎は甘えん坊だった。ただ、男の人には突っついたり、追っかけたりしていた。父にも……。母に、「あんたの餌代もこの人のおかげじゃから、ダメ!!」と叱られていた。

何年生きてたかな？ 成長の度に足の「けずめ？」が落ちる。手の小指ほどのそれを、母は大切に保管していて……。笑えた。

